

第59回博物館コンサートを開催

●博物館



コンサートの様子

博物館では、1月24日(土)、第59回博物館コンサート「フラメンココンサート」を開催しました。平成13年から続いている NUMCo(ナムコ)(名古屋大学博物館コンサート)ですが、今回は433名の聴衆が訪れ多くの立ち見客も出る状況でした。「タンゴス Tangos」から始まった全7曲の演奏と踊りは、観客をフラメンコの世界の虜にしました。博物館という場所柄、舞台があるわけでもなく、高低差のある客席もありません。このように条件が悪い場所ですが、何よりも博物館の標本に囲まれて見る、聞くということは、他の会場ではまねの出来ない独特の雰囲気があります。演奏の合間に行われた『フラメンコがどんな歴史をたどって現在に至っているか。楽器がどんな材料からできてどんな演奏をするか』なども大好評でした。「フラメンコの事が良く分かった」、「本当にすばらしい演奏で感激した」、「カンテの歌声がすばらしかった」、「また博物館でフラメンコを見たい」などの感想が寄せられました。

第18回次世代自動車公開シンポジウムを開催

●グリーンモビリティ連携研究センター



中村センター長による講演の様子

グリーンモビリティ連携研究センターは、2月13日(金)、経済学部1階第1講義室において、「第18回次世代自動車公開シンポジウム」を開催しました。今回のシンポジウムは、「愛知県内4大学合同次世代モビリティシンポジウム」と題し、同センターが独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託により実施している「環境考慮型モビリティ技術経営特別講座」報告会と併催し、約100名の参加がありました。

今回の講演は、宮田 譲豊橋技術科学大学未来ビークルシティリサーチセンター副センター長、米陀佳祐豊田工業大学スマートビークル研究センター研究員、中村 隆名古屋工業大学次世代自動車工学教育研究センター長の3名によって行われました。シンポジウム後半には企業技術者からなる NEDO 講座受講生による報告会があり、講演者との間で白熱した議論が展開されました。

第107回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター



講演する翠川教授

減災連携研究センターは、1月29日(木)、減災館において、第107回防災アカデミーを開催しました。今回は翠川三郎東京工業大学教授が「建物の耐震化と地震ハザードマップ」と題して講演を行い、102名が参加しました。講演では、20年前に発生した阪神・淡路大震災を契機として重要課題となった、木造家屋の耐震化に対する横浜市の先進的な取り組みが紹介されました。横浜市では、「信頼」、「認識」、「理解」、「解決策」、「実行」の5段階からなるリスク認知の CAUSE モデルを踏まえ、住民の地震の危険に関する認知度を高めることを目的として、50m メッシュの地震ハザードマップを全国で初めて作成し、耐震化率の向上につなげました。しかし、現実には耐震化率の目標はなかなか達成できません。翠川教授からは、世代によってリスクの受け止め方や耐震化にかけられる支出可が異なるので、耐震化メニューを多様化していくことの重要性が指摘されました。